

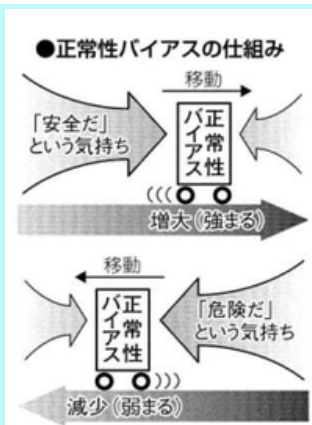
正常性バイアスって知っていますか?

「正常性バイアス(normalcy bias)」は、心理学の用語です。社会心理学や災害心理学だけでなく、医療用語としても使われます。人間が予期しない事態に対峙したとき、「ありえない」という先入観や偏見(バイアス)が働き、**物事を正常の範囲だと自動的に認識する心の働き(メカニズム)**を指します。

記憶に新しいのは甚大な被害を出した東日本大震災で、「大地震の混乱もあり、すぐに避難できなかった」「あれほど巨大な津波が来るとは想像できなかった」と思った人がたくさんいらしたことが、のちの報道によって明らかになりました。また、御嶽山の噴火の際にも同じような心理が働いていた可能性があります。

火山の噴火という危険な状態に接しても、「大丈夫だろう」(=正常性バイアスの働き)と、立ち上る噴煙を撮影していたため、避難が遅れた人も少なくないといわれています。

そんないざという時...そのために有効なのが「訓練」です。訓練を重ねることで、自然にいつもと同じ行動をとることができる、つまり、訓練と同じ行動をとることで身を守れる、というわけです。非常事態の際に「正常性バイアス」に脳を支配されないよう、本当に危険なのか、何をしたらいいかを見極める判断力を養っておきましょう。



まさにこれは現場に通じるものがあります。安全であることに越したことはありませんが、事故はすぐそばにあります。そういった場合に正しい判断を下せるように常日頃からシュミレーションを重ねていく必要があります。

秋の 全国交通安全運動



この運動は、国主導で広く交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、国民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的としています。それに伴い、下記4点の重点をおいて推進しています。

- (1) 子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止
- (2) 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- (3) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (4) 飲酒運転の根絶

弊社も日常から気を付けてはおりますが、最近では若い社員も多くの機会です車を運転するようになってきており、**社用車での事故が急増してきています**。不慣れた2t車や荷物をたくさん積んだハイエースなどは普段乗っている車とはまた違った注意が必要になったりします。交通安全運動の看板を多く見かけるこの秋は、より一層車の運転には慎重になりましょう。また、ロードバイク型の自転車が流行し一般道路でも、自動車と自転車が同じスピードで走っていたり、歩道でもスマートフォンを触りながら歩いている人がいる中で、私たちの身の回りにも気をつけるポイントが多く存在すると思います。もし事故を起こしてしまったり、事故にあってしまった時、悲しい思いをするのは自分も含め、家族だと思えます。上記の交通安全運動運動は9/30で終了しておりますが引き続き、こういった緊張感を日常も持ち続け、みんなが安全に過ごせる道を築き上げていきましょう。